

井上ひさしによるヴァイルのメロディー尽くし

—「夢の裂け目」の音楽的趣向について—

坂本 麻実子

Enumeration of Weill's Melodies by Inoue Hisashi

—on A Musical Idea in Yumenosakeme—

SAKAMOTO Mamiko

E-mail: msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：井上ひさし，ヴァイル，夢の裂け目，音楽劇，ミュージカル

keywords: Inoue Hisashi, Weill, Yumenosakeme, music drama, musical

はじめに.

2010年(平成22年)4月9日、井上ひさしが死去した日(享年75歳)は、新国立劇場での井上の音楽劇「夢の裂け目」の再演2日目であった。「夢の裂け目」(2001年5月初演)は井上が新国立劇場に書き下ろした「東京裁判三部作」の第1作で、今年さらには第2作「夢の泪」(2003年10月初演)、第3作「夢の痂」(2006年6月初演)を3カ月かけて連続上演するという企画が始まったばかりであった。東京裁判三部作は極東国際軍事裁判(1946-48)とその時代に焦点をあて、日本人の戦争責任を問う作品であるが、井上の音楽劇を考察してきた立場から見ると(坂本2003a, 2003b, 2004, 2009)、東京裁判三部作は3作ともヴァイル⁽¹⁾ Weill, Kurt (1900-1950) という作曲家の音楽を使用し、中でも「夢の裂け目」はヴァイルの主要作品のメロディーを満載している点に音楽劇としての特徴がある。

井上が劇中歌に西洋の作曲家の作品を使用することは珍しくないが、ヴァイルのメロディーを使用する作品は東京裁判三部作以外には見当たらず、特に「夢の裂け目」は12曲も歌われ、「夢の泪」の6曲、「夢の痂」の1曲と比べて突出している。後述するように、井上はヴァイルの音楽を好んだが、東京裁判三部作でのヴァイルの音楽の使用は、個人的な趣味という以上に劇作家としての意図があったと筆者は考えている。そもそも、「夢の裂け目」の主人公田中天声(留吉)は「夢の泪」の主人公伊藤菊治とともに「敗戦のあくる年」(1946)に46歳とあり、

1900年生まれでヴァイルと同年に設定されている。ヴァイル自身、ナチスの迫害を受けたユダヤ人作曲家であった。ドイツ生まれのヴァイルは、ベルリンでブゾーニ Busoni, Ferruccio (1866-1924) に学び、1920年代から「交響曲第一番」(1921年)やオペラ「プロタゴニスト」(1924年)を書いてクラシックの前衛作曲家と目されていたが、1927年に劇作家ブレヒト Brecht, Bertolt (1898-1956) と出会ってから大衆的な音楽劇を書くようになり、社会を痛烈に風刺した「三文オペラ」(台本ブレヒト、1928年ベルリン初演)はセンセーショナルな話題を呼んだ。1930年代にはいりブレヒトとは対立し、ナチスには音楽活動を妨害されたヴァイルは1933年にドイツを脱出し、パリを経て1935年にニューヨークに渡った。しかし、当時のアメリカでは「三文オペラ」は理解されず、1933年4月のエムパイア劇場での公演は12回で打ち切られていた⁽²⁾。アメリカでのヴァイルはブロードウェイミュージカルを手がけ、1940年にアルヴィン劇場で初演された「暗闇の女」はヒット作の一つで467回のロングランになった(芝1991: 148-149)。1943年には市民権を取得し、ドイツには二度と戻らずに1950年に死んだ。ヴァイルの仕事は亡命をはさんでドイツ時代の音楽劇、アメリカ時代のミュージカルに二分される。しかし、西洋音楽史ではブレヒトと組んで一時代を画した音楽劇に比べ、商業主義のブロードウェイミュージカルの評価はヴァイルのアメリカへの同化の問題と絡んで必ずしも高くない⁽³⁾。日本でも「三文オペラ」は上演されるが「暗闇の女」を知る

人は少ない。したがって、東京裁判三部作ではヴァイルの音楽劇のメロディーもミュージカルのメロディーも活用され、井上はヴァイルの音楽をトータルに取り上げているのは注目される。そこで、井上のヴァイル愛好を検討し、東京裁判三部作の音楽世界を概観した上で「夢の裂け目」におけるヴァイルの音楽の使い方の工夫や効果について考察する。

1. 井上ひさしとヴァイル

井上は少年時代からミュージカルを好んだ。井上は「ブロードウェイ仕事日記」(井上1989)というエッセイの中で「現在でもガーシュインは、クルト・ワイルと並んで、わたしにとっては最高最大の作曲家」であり「二人ともブロードウェイのショウの音楽を書いている」(井上1989:91)と述べている。1985年1月、井上は初めてブロードウェイの劇場街を訪れインペリアル劇場の前に立ったとき、かつて上演されたガーシュウィン Gerswin, George (1898-1937)の「オー・ケイ！」(1926年初演)やヴァイルの「生き返ったヴィーナス」(1943年初演)を思い浮かべて感激した。この体験は後年の作品に生かされている。「オー・ケイ！」の「Do Do Do」は「ロマンス」(2007年初演)の「チャーホフの噂」に使用された。「生き返ったヴィーナス」からは、井上自身が「名曲」(井上1989:101)と呼ぶ「スピーク・ロウ」は「夢の裂け目」の「父さん」に使用された。さらに「I'm A Stranger Here Myself」は「夢の泪」でその名も「酒のしずくは夢の泪」に使用された。ただし、井上与ガーシュウィン、井上与ヴァイルの関係は全く同じではない。昭和9年(1934)生まれの井上は、東北の田舎町で「音楽気のあるアメリカ映画を主食に育った」(井上1989:92)。夢中になったのはガーシュウィンの伝記映画「アメリカ交響楽」で、「ガーシュイン狂い」(井上1989:118)を自認していた。放送作家になると「ミュージカルのブロードウェイ初演出演者のレコードをせっせと集め」(井上1989:92)、「ひょっこりひょうたん島」(1964年4月~1969年4月放送)の放送台本には歌をたくさん挿入し、実際に「日本人とへそ」(1969年初演)というミュージカル台本も書いた。その時点で、劇作家としての井上は歌唱力やダンスの点で日本人のミュージカルに限界を感じてしまう。そこで「日本国の俳優の肉体でな

ければ表現できないもの」を求めた結果、「音楽のたっぷり入った芝居を目指すこととなった。クルト・ワイルの音楽が好きになったのも、わたしの中で右のような回心がおこったからだろうと思われる。ワイルの音楽なら、タップやピルエットやジャンプがなくても、べつにおかしくはないんじゃないか」(井上1989:94)という。以来、井上は最晩年まで役者たちに歌わせる芝居を書き続けた。しかし、劇作家の井上はミュージカルをあきらめてもミュージカル愛好家の井上は健在であった。むしろ、ミュージカル愛好家の井上は劇作家の井上の中にくすぶっているミュージカルへの未練を忘れさせなかった。そのような井上から見ると、母国ドイツで成功した音楽劇を手放し、亡命先のアメリカでアメリカ人好みのミュージカルに活路を見だして成功したヴァイルには共感するものがあつたに違いない。「日本人のへそ」から約30年後、井上は東京裁判三部作においてヴァイルのドイツ時代の音楽劇とアメリカ時代のミュージカルを併用し、井上の流儀でヴァイルの音楽の全体像を提示した。東京裁判三部作で取り上げられたヴァイル作品は、ドイツ時代の音楽劇から「三文オペラ」(夢の裂け目、夢の泪)、「ハッピーエンド」(夢の裂け目)、「マハゴニー市の興亡」(夢の裂け目、夢の痂)、「イエスマン」(夢の泪)の4作品、アメリカ時代のミュージカルからは「暗闇の女」(夢の裂け目、夢の泪)、「生き返ったヴィーナス」(夢の裂け目、夢の泪)、「ラブ・ライフ」(夢の裂け目)の3作品と歌曲1曲「夜勤シフトの相棒に」(夢の泪)である。

2. 東京裁判三部作の音楽世界

まず、表1に基づき東京裁判三部作の音楽世界を概観する。ヴァイルの音楽の使用状況は、第1作「夢の裂け目」では音楽劇3作品8曲、ミュージカル3作品4曲で全12曲、第2作「夢の泪」では音楽劇2作品3曲、ミュージカル2作品2曲、その他歌曲1曲で全6曲、第3作「夢の痂」では音楽劇1作品1曲で全1曲が使用された。なお、ヴァイルの楽譜と照合すると、東京裁判三部作の劇中歌はヴァイルのメロディーを最初から最後まで使用するものとサビの部分のみ使用するものがある。

東京裁判三部作の中で「夢の裂け目」は井上の手になるヴァイル・メロディーのベスト版である。音

表 1. 東京裁判三部作におけるヴァイルの使用状況

I. ドイツ時代の作品	
I-1 「三文オペラ Der Dreigroschenoper」	台本ブレヒト，初演1928年，ベルリン，アム・シフバウアー ダム劇場
①メッキーマッサーの大道物語殺し歌（モリタート）	Moritatz vom Mackie Messer ⇒「夢の裂け目」カーテンコール マック・ザ・ナイフ
②バルバラ・ソング Barbara Song	*⇒「夢の裂け目」柳橋ソング
③ソロモン・ソング Solomon Song	⇒「夢の裂け目」伝道士の娘のワルツ
④セックスの虜のバラード Ballade Von Den Sexuellen Horigkeit	⇒「夢の泪」新橋ワルツ
I-2 「ハッピーエンド Happy End」	(台本ハウプトマン，ブレヒト) 初演1929年，ベルリン，アム・シフバウアーダム劇場
①ビルバオ・ソング Bilbao Song	⇒「夢の裂け目」紙芝居ソング
②スラバヤ・ジョニー Surabaya-Johny	*⇒「夢の裂け目」スラバヤジェニィ
I-3 「マハゴニー市の興亡 Aufstieg und Fall der Stadt Mahagonny」	台本ブレヒト，初演1930年，ライプツィヒ，新劇場
①アラバマ・ソング Alabama Song	*⇒「夢の裂け目」学問ソング
②ねえ考えてみて，ヤコブ・シュミット Oh, think it over, Mr. Jakob Schmidt	⇒「夢の裂け目」夢の裂け目
③ベッドは自分のために作る Denn Wie Man Sich Bettet	* ⇒「夢の裂け目」および「夢の痂」日常生活の楽しみのブルース
I-4 「イエスマン Der Jasager」	台本ブレヒト，初演1930年，ベルリン放送
①No.6	⇒「夢の泪」わたし，判らない
②No.10	⇒「夢の泪」朝の唄
II. アメリカ時代の作品	
II-5 「暗闇の女 Lady in the Dark」	台本 M. ハート，I. ガーシュウィン，初演1941年，ニューヨーク，アルヴィン劇場
①ジェニーの物語 Saga of Jenny	*⇒「夢の裂け目」しゃべる男
②One Life to Live	*⇒「夢の裂け目」ズキン！
II-6 「生き返ったヴィーナス One Touch of Venus」	台本パールマン，初演1943年，ニューヨーク，インペリアル劇場
①スピーク・ロウ Speak Low	*⇒「夢の裂け目」父さん
②I'm A Stranger Here Myself	⇒「夢の泪」酒のしずくは夢の泪
II-7 「ラブ・ライフ Love Life」	台本ラーナー，初演1948年，ニューヨーク，46丁目劇場
①グリーン・アップ・タイム Green-Up Time	*→「夢の裂け目」フツー人行進曲
II-8 夜勤シフトの相棒に Buddy on the Nightshift	(作詞ハマースタイン二世) ⇒「夢の泪」相棒ソング

備考：井上（2001，2004，2007）に基づく。*印はサビの部分のみ使用。

楽劇では、「三文オペラ」からは有名な「メッキーマッサーの大道物語殺し歌（モリタート）」、「バルバラ・ソング」，「ソロモン・ソング」が使用される。「ハッピーエンド」からは「ビルバオ・ソング」と「スラバヤ・ジョニー」が使用される。「マハゴニー市の興亡」からは「アラバマ・ソング」，「ねえ考えてみて，ヤコブ・シュミット」，「ベッドは自分のために作る」が使用される。ミュージカルでは「暗闇

の女」から「ジェニーの物語」と「One Life to Live」，「生き返ったヴィーナス」から「スピーク・ロウ」，「ラブ・ライフ」から「グリーン・アップ・タイム」が使用される。次に「夢の泪」は「夢の裂け目」では取り上げられなかったメロディーを集め，ベスト版の続編と言える。音楽劇では「三文オペラ」から「セックスの虜のバラード」，「ハッピーエンド」と「マハゴニー市の興亡」からの使用はないが，そ

表 2. 東京裁判三部作におけるヴァイル以外の作曲家の使用状況

1 宇野誠一郎 (1927-)	<ul style="list-style-type: none"> ①雨は何処に降る ⇒ 「夢の裂け目」 雨が今日も降る ②夜を待とうよ ⇒ 「夢の裂け目」 しずかな夜を ③かわいそうな蠅 ⇒ 「夢の泪」 法律事務所の仕事 ④心のこり ⇒ 「夢の泪」 丘の上の桜の木あるいは丘の桜 ⑤ただ好きなのさ ⇒ 「夢の泪」 いま、ぼくは感じる ⑥クプココマーチ ⇒ 「夢の痂」 天子さまのマーチ
2 ロジャース Rogers, Richard (1902-1979)	<ul style="list-style-type: none"> ①「パル・ジョーイ Pal Joey」より Chicago-A Great Big Town ⇒ 「夢の泪」 空の月だけが明るい東京, 空の月だけが暗い東京 ②「ガールフレンド The Girlfriend」より ブルールーム Blue Room ⇒ 「夢の泪」 うるわしの父母の国 ③「ラブ・ミー・トゥナイト Love Me Tonight」より ラヴァー Lover ⇒ 「夢の痂」 わが友文法, のワルツ
3 パー=デーヴィス Parr-Davies, Harry (1914-1955)	<ul style="list-style-type: none"> ①Wish Me Luck As You Wave Me Goodbye ⇒ 「夢の泪」 ころやさし君よ
4 マーティン Martin, Hugh (1914-)	<ul style="list-style-type: none"> ①「若草の頃」(原題 Meet Me in St. Louis) より トロリー・ソング The Trolley Song ⇒ 「夢の痂」 ある参謀の半生, ある女流文法学者の半生
5 デラッグ Delugg, Milton (1918-)	<ul style="list-style-type: none"> ①シャンハイ Shanghai ⇒ 「夢の痂」 天の贈り物
6 ベートーヴェン Beethoven, Ludwig van (1770-1827)	<ul style="list-style-type: none"> ①ジュディ, 類いまれなお前は Judy, Lovely, matchless creature ⇒ 「夢の痂」 主務官の仕事は

備考：井上 (2001, 2004, 2007) に基づく。

の代わりに「イエスマン」から第6曲と第10曲が使用される。ミュージカルでは「生き返ったヴィーナス」から「I'm A Stranger Here Myself」が使用される。「暗闇の女」と「ラブ・ライフ」からの使用はないが、その代わりにミュージカル界最大の作詞家であるハマースタイン二世 Hammerstein, Oscar, II (1895-1960) の詩による歌曲「夜勤シフトの相棒に」が使用される。最後に「夢の痂」では音楽劇「マハゴニー市の興亡」から1曲のみ「ベッドは自分のために作る」が使用されるが、このメロディーで歌う「日常生活の楽しみのブルース」はすでに「夢の裂け目」で披露されていた。既出の歌の再使用が「夢の痂」のねらいなのだろう。

ところで、東京裁判三部作には表2と3に示すようにヴァイル以外の作曲家の作品も使用されている。

「夢の裂け目」ではヴァイル11曲に対しヴァイル以外の作曲家が1名で全2曲が使用される。「夢の泪」ではヴァイル6曲に対しヴァイル以外の作曲

表 3. 東京裁判三部作におけるヴァイルとヴァイル以外の作曲家の使用曲数の比較

曲数 タイトル	ヴァイル使用曲数	ヴァイル以外の作曲家使用曲数
夢の裂け目	12 曲	2 曲
夢の泪	6	6
夢の痂	1	5

備考：表1と2より作成。

家が3名で全6曲が使用される。「夢の痂」ではヴァイル1曲に対しヴァイル以外の作曲家が5名で全5曲が使用される。したがって、「夢の裂け目」よりも「夢の泪」, 「夢の泪」よりも「夢の痂」とヴァイルの使用曲数が減るにつれ、ヴァイル以外の作曲家の人数や使用曲数が増える。ヴァイル以外の作曲家では、ヴァイルと並び3作を通じて使用されるのが宇野誠一郎(1927-)である。宇野は「ひょっこりひょうたん島」をはじめ放送作家時代から数多くの井上作品の音楽を担当している。次いで「夢の泪」と「夢の痂」で使用されるのがミュージカル界最大の

作曲家ロジャース Rogers, Richard (1902-1979) である。ロジャースは初めはハート Hart, Lorenz (1895-1943) と組み、次いでハマーライン二世と組んでヒット作を連発したが、東京裁判三部作で使用されるのはハートとの作品であり、「夢の泪」では「パル・ジョーイ」(1940年初演)から「Chicago-A Great Big Town」, 「ガールフレンド」(1926年初演)から「ブルールーム」が使用される。「夢の痂」ではミュージカル映画「ラブ・ミー・トゥナイト」(1932年)の主題歌「ラヴァー」が使用される。その他、パー＝デーヴィス Par-Davies, Harry (1914-1955) はシンガーソングライターであり「夢の泪」で「I Wish Me As You Wave Me Goodbye」が使用される。マーティン Martin, Hugh (1914-) は作詞、作曲家であり「夢の痂」でミュージカル映画「若草の頃(原題 Meet Me in St. Louis)」(1944年)から「トロリー・ソング」が使用される。デラッグ Delugg, Milton (1918-) は作曲家、編曲家であり、「夢の痂」で使用される「シャンハイ」は人気女性歌手デイ Day, Doris の1951年のヒット曲である。ロジャース、パー＝デーヴィス、マーティン、デラッグはヴァイルと合い前後して商業音楽の世界で仕事をしていた作曲家たちである。その一方で、井上は「夢の痂」でドイツ・クラシック音楽の巨匠ベートーヴェン Beethoven, Ludwig van (1770-1827) を取り上げ、しかもベートーヴェンが編曲したアイルランド民謡「ジュディ、類いまれなお前は」を使用する(井上はスコットランド民謡とするが「12のアイルランドの歌」WoO. 153の第19曲で、ヴァイオリン、チェロ、ピアノの伴奏つき歌曲である)。西洋音楽史の評価では、ベートーヴェンの功績は交響曲、ピアノソナタ、協奏曲、弦楽四重奏曲にあり、民謡編曲は軽んじられている。しかし、井上はベートーヴェンの編曲民謡に少なからず関心があり、「太鼓たたいて笛ふいて」(2002年初演)、「箱根強羅ホテル」(2005年初演)に続いて「夢の痂」(2007年初演)で使用した⁽⁴⁾。西洋音楽史から見ると、ヴァイルの音楽劇とミュージカルを併用するアイデアも斬新であるが、ベートーヴェンの編曲民謡の使用は奇想と言うべきだろう。

3. 「夢の裂け目」とヴァイルの音楽

東京裁判三部作の中でも「夢の裂け目」はヴァイ

ルのベスト・メロディーを織り込み、ヴァイル好きの井上の面目躍如である。そもそも、井上は「夢の裂け目」の舞台を紙芝居屋集団「民主天声会」とした。これは「三文オペラ」の舞台となる乞食集団「ピーチャム商会」のやつしである。乞食の物乞いは一種の大道芸であるが、紙芝居も大道での語り芸であり、「夢の裂け目」では劇中歌に劣らず紙芝居の語り聞きものである。そうなると、「夢の裂け目」の劇中歌や語りもヴァイルの作品から大なり小なりヒントを得ているのではないだろうか。

表4は「夢の裂け目」の劇中歌と語りの一覧である。劇中歌にはアラビア数字で、語りには漢字で通し番号をつけた。劇中歌は9人の登場人物全員が担当するが、語りは主人公の天声の独壇場である。登場人物は次の9人。田中天声(留吉。紙芝居屋の親分)、田中道子(天声の娘)、田中君子(天声の妹。紙芝居屋だがもとは柳橋芸者)、加藤清風(末太郎。紙芝居の絵師)、紺野妙子、川本孝、関谷三郎(天声配下の紙芝居屋たち)、成田耕吉(インテリくずれの闇屋)、川口ミドリ(伝道士の娘。GHQ秘書)。表4には劇中歌と語りの演唱者を示した。

まず、「夢の裂け目」の劇中歌とヴァイル作品との関連を順を追って検討しよう。

1. シャベる男: 「夢の裂け目」のオープニングは「三文オペラ」を下敷きにしている。「シャベる男」は主人公の天声の口八丁の半生を紹介する歌。(ちなみに「天の声」には「言葉」という意味がある。)原曲は「ジェニーの物語」(暗闇の女)であるが、「三文オペラ」の序幕で主人公のメッキース(盗賊団のボス)の悪行の数々を紹介する歌「モリタート」のやつしとして使用される。(当の「モリタート」は「夢の裂け目」のカーテンコールに使用される。)⁽⁵⁾「三文オペラ」では群衆に向かって大道歌手が「モリタート」を歌うのに対して、「夢の裂け目」では天声をのぞく8人の役者が群衆に扮し、「シャベる男」を一節ずつ順番に歌う。「三文オペラ」では「モリタート」が終わると群衆の中から出て来て立ち去る男に呑み屋のジェニー(メッキースの元愛人。初演ではヴァイルの妻ロッテ・レーニアが演じた)が一声、「あれが、ドスのメッキーだよ」と叫ぶ。「夢の裂け目」では「シャベる男」の歌の最終節の途中で天声が紙芝居居道具を自転車に乗せて舞台を横切ると歌が止み、群衆役の1人が「いまのが、そのシャベる男だ

表4. 「夢の裂け目」の劇中歌と語り一覧

場面	通し 番号	タ イ ト ル [] 内は原曲	演 唱 者
I-(1)	1	しゃべる男① [Weill; Saga of Jenny]	道子, 君子, 清風, 妙子, 孝, 三郎, 耕吉, ミドリ
I-(2)	2	ズキン!① [Weill; One Life to Live]	道子
	壺	紙芝居「満月狸ばやし」	三郎から天声に代わる
	3	紙芝居ソング [Weill; Bilbao Song]	天声, 清風, 君子, 孝, 道子, 三郎
I-(3)	4	雨が今日も降る [宇野誠一郎; 雨は何処に降る]	天声, 清風, 孝, 三郎
	5	柳橋ソング [Weill; Barbara Song]	君子, 妙子
I-(4)	6	伝道士の娘のワルツ [Weill; Solomon Song]	ミドリ
I-(5)	—	ズキン!②	道子
	7	スラバヤジェニィ [Weill; Surabaya-Johnny]	天声, 清風
	8	フター人行進曲① [Weill; Green-Up Time]	天声, 道子, 君子, 清風, 妙子, 孝, 三郎, 耕吉
II-(6)	—	ズキン!③	道子
	9	学問ソング [Weill; Arabama Song]	道子, 耕吉
	10	しずかな夜を [宇野誠一郎; 夜を待とうよ]	天声, 道子, 君子, 清風, 妙子, 孝, 三郎
	—	フター人行進曲②	天声, 君子, 清風, 妙子, 孝, 三郎
II-(7)	11	夢の裂け目 [Weill; Oh, Think it over, Mr. Jakob Schmidt]	ミドリ
II-(8)	12	父さん [Weill; Speak Low]	道子
	13	日常生活の楽しみのブルース [Weill; Denn Wie Man Sich Bettet]	天声, 道子, 君子, 清風, 妙子, 孝, 三郎
II-(9)	—	しゃべる男②	君子, 三郎, 妙子, 孝, 道子, 耕吉, 清風
	式	説教「酒の害について」	天声
カーテン コール	14	マック・ザ・ナイフ [Weill; Moritat vom Mackie Messer]	全員

備考：井上(2001)より作成。通し番号のアラビア数字は劇中歌，漢数字は語りを示す。

よ」と叫ぶ。そのあとで残りを歌う。

なお、「しゃべる男」は「夢の裂け目」のエピローグにあたる第2幕第9場で登場人物たちの10年後の様子を紹介する歌として再び使用される。

2. ズキン!：「夢の裂け目」のヒロイン道子のテーマソング。女学校を卒業したばかりの道子は「一度だけの人生 どう生きればいいのか」と歌う。原曲「One Life to Live」(暗闇の女)のタイトルを生かした歌である。「ズキン!」は第1幕第2場、

第5場、第6場と3回歌われ、そのたびに道子は聡明な女性に成長していくのがわかる。

3. 紙芝居ソング：紙芝居の仕事について説明する歌。「三文オペラ」ではピーチャムのセリフで乞食ビジネスの説明が行われるが、「夢の裂け目」では「ビルバオ・ソング」（ハッピーエンド）のメロディーに乗せて説明する。なお、天声の子分のうち新入りの三郎は、もぐりで紙芝居を見せていて孝に捕まり、天声の配下に入れられた。三郎は「三文オペラ」の新入り乞食フィルチのやつしである。
4. 雨が今日も降る：雨続きで商売上がったりの紙芝居屋たちが歌う。宇野誠一郎の原曲「雨は何処に降る」は「ひょっこりひょうたん島」（マジョリタンの巻）で歌われる「一つの山に雨がふる」に該当する（井上，山元1991b:19，楽譜あり）。梅雨のさなか、「このまま降れば／あの町この町海になる」という「雨が今日も降る」のイメージは、ヴァイルの「マハゴニー市の興亡」で台風の襲来におびえる人々の歌「おお、恐ろしいことだ／この歓楽の町は破壊される」を踏まえるか。
5. 柳橋ソング：戦前の柳橋を回顧する歌。原曲の「バルバラ・ソング」（三文オペラ）はヒロインのポリー（ピーチャムの娘）が親に内緒でメッキースと結婚したことを報告する歌であるが、「夢の裂け目」ではもと柳橋芸者の君子と君子の朋輩だった妙子が色街風景を情感たっぷりに歌う。女性のデュエットという点で、「三文オペラ」でポリーとルーシー（後述のタイガー・ブラウンの娘）がメッキースをめぐって張り合う「嫉妬のデュエット」のやつしと見て良いだろう。
6. 伝道士の娘のワルツ：「三文オペラ」にはポリーというヒロインに加え、呑み屋のジェニーという年増のヒロインがいる。「夢の裂け目」ではポリーに対応するのが道子、呑み屋のジェニーに対応するのが川口ミドリである。ジェニーがメッキースとの過去を歌う「ソロモン・ソング」は、ミドリが若き日の天声との出会いを回想する「伝道士の娘のワルツ」に転用された。ただし、ミドリはメソジスト派伝道士の娘でGHQ 秘書というインテリ女性である。
7. スラバヤジェニィ：戦時中、天声と清風が紙芝居の慰問で南方戦線を回ったときに出会ったジャワ娘を思う歌。原曲「スラバヤ・ジョニー」（ハッ

ピーエンド）は昔の男への未練を歌う女の歌だが、「夢の裂け目」では男の歌に逆転している。「スラバヤジェニィ」は男性のデュエットという点で「三文オペラ」でメッキースとタイガー・ブラウンが歌う「大砲の歌」のやつしと考えられる。「大砲の歌」は軍歌である。盗賊のメッキースとロンドン警視総監のブラウンは天敵同士だが、かつては戦場で死線をさまよった戦友であったという設定を利用している。なお、「夢の裂け目」の加藤清風は「三文オペラ」のタイガー・ブラウンのやつしであり、だからこそ清風の名前は戦国時代の武将加藤清正（幼名虎之助）と一字違いなのだろう。

8. フツー人行進曲：第1幕のフィナーレを飾るアンサンブル。「政治のことなどわからない／その日が楽しけりゃそれでいい」、「世界のことなどわからない／その日が楽しけりゃそれでいい」と歌われる日本のフツー人（庶民）に戦争責任はあるか、あるとすればどのように責任を取るのか。原曲が「グリーン・アップ・タイム」（ラブ・ライフ）なのでショウ・アップされた歌であるが、「夢の裂け目」の中心的なテーマを盛り込む。第1幕第5場と第2幕第6場の2回歌われる。
9. 学問ソング：道子と耕吉のデュエット。「三文オペラ」の主人公メッキースはポリーとも呑み屋のジェニーとも関係をもつが、「夢の裂け目」の主人公の天声と道子は親子なので、道子の恋人役には耕吉が割り当てられる。（天声にはミドリが求婚する。）原曲の「アラバマ・ソング」（マハゴニー市の興亡）はマハゴニーに稼ぎに行く売春婦たちの歌であるが、道子と耕吉は生徒と先生の関係から始まった仲なので、恋のデュエットも「学問ソング」である。
10. しずかな夜を：夏の夕暮れ、紙芝居屋たちが空襲のない静かな夜のありがたさを歌う。宇野の原曲「夜を待とうよ」は「ひょっこりひょうたん島」（ブルドキアの巻）で博士が歌う（井上，山元1991a:307，楽譜あり）。ただし、「マハゴニー市の興亡」の主要人物の一人であるパウル・アッカーマンが絞首刑になる前日に歌う「この夜が明けちゃ困る」との関連も指摘しておきたい。
11. 夢の裂け目：ミドリが歌うタイトルソング。原曲「ねえ考えてみて、ヤコブ・シュミット」（マハゴニー市の興亡）は売春婦のジェニーが客と値

段の交渉をする歌なので歌の合間にセリフのやりとりがあるが、ミドリが歌う「夢の裂け目」でもミドリの恋ごころに気づかない天声がミドリの歌の合間にとんちんかんなあいづちのセリフを入れる。

12. 父さん：天声は十八番の「満月狸ばやし」に新たに東京裁判を批判する内容を加えて口演し、GHQに逮捕される。道子は父親の勇気を誇りに思って歌う。「スピーク・ロウ」(生き返ったヴィーナス)の楽譜を見ると、井上は原曲にある「too soon」という歌詞を「とーさん」と読み替えて作ったことがわかる。

13. 日常生活の楽しみのブルース：第二幕の実質的なフィナーレのアンサンブル。原曲「ベッドは自分のために作る」(マハゴニー市の興亡)の内容を生かし、自分たちの暮らしの中の小さな幸福を第一に考える日本のフッー人を井上は愛しく思い、歯がゆくも思って作られた。第1幕のフィナーレ「フッー人行進曲」に続き、重ねて日本人の戦争責任を問いかける歌である。

14. マック・ザ・ナイフ：「三文オペラ」のオープニングの「モリタート」は「マック・ザ・ナイフ」とも呼ばれる。「モリタート」は「夢の裂け目」ではカーテンコールで9人の役者を紹介する歌として使われ、さらに井上が観客に向けたメッセージソング(劇場は夢を見るなつかしい揺りかご／その夢の真実を考えると／その夢の裂け目を考えると)となった⁽⁵⁾。

以上、「夢の裂け目」の劇中歌を検討すると、ヒロインには道子にもミドリにもソロが用意されているが、主人公の天声にソロの用意はない。天声が紙芝居でGHQを批判して逮捕されて地下留置場に入れられて泣き叫ぶのは、「三文オペラ」で娼婦たちの裏切りで逮捕されて牢屋で泣き叫ぶメッキースを踏まえているが、メッキースは「墓穴からの叫び」をソロで歌って訴えるのに対し、天声は「出してくれ」とセリフで訴える。天声が音楽面で主役として際立つのは歌ではなくて語りであり、「夢の裂け目」では天声の語りとして次の二題を用意する⁽⁶⁾。

壺. 紙芝居「満月狸ばやし」：まず新入りの三郎が語るが、山場になると天声が取って代わり、語りの格の違いを見せつける。

式. 説教「酒の害について」：GHQに逮捕された天声は、ミドリが上層部に働きかけたおかげで紙

芝居の廃業を条件に釈放される。これは、メッキースが女王の恩赦によって釈放されたことを踏まえており、釈放を告げる使者は「三文オペラ」ではタイガー・ブラウンだが、「夢の裂け目」ではミドリである。10年後、天声は紙芝居で鍛えた語り口を生かし、伝道士となったミドリを手伝って説教を行う。何かにつけて酒を飲む者は罪深く、天国は遠いと説く天声の語りは、釈放されたメッキースのソロ「メッキースがすべての人々に許しを乞うバラード」に相当するだろう。

4. 物尽くしという趣向とその成果

「夢の裂け目」は公演パンフレットにも単行本にも劇中歌のリスト(劇中歌とその原曲の一覧)が掲載され、「夢の泪」、「夢の疵」も同様である。実は、井上が劇中歌リストを掲載することは「夢の裂け目」以前の音楽劇にはなかった。「夢の裂け目」以後も井上はすべての音楽劇に劇中歌リストを掲載しているわけではない。その意味では、東京裁判三部作すべてに劇中歌リストを掲載しているのは見逃せない。井上自身は東京裁判三部作に関して日本人の戦争責任という観点からは語るが(井上2005b, 2005c)、あれほど好きなヴァイルの観点からは何も語っていない。その代わりに、ヴァイルの音楽を多用する劇中歌リストを掲載し、ヴァイルの音楽に観客や読者の注意がいくように仕向けている。これは、井上がヴァイルの音楽を東京裁判三部作という芝居に不可欠な「趣向」として扱っているからだろう。

井上のエッセイ「趣向を追う」(井上2005a)によれば、芝居を書くには「世界」という縦糸に「趣向」という横糸を織り込むことが必要であり、「世界」とは「作者が書きたいもの」で、「趣向」とは芝居として成立させるための「何かおもしろそうな仕掛け」であると言う。ただし、「世界」と「趣向」の関係は劇作家と観客では異なる。劇作家は「世界」が第一で「趣向」は「世界」を表現するための手段であるが、観客は「趣向」という回路を通じて劇作家の「世界」を理解する。「夢の裂け目」では、東京裁判で問題提起される日本人の戦争責任が「世界」であり、ヴァイルのメロディーを数多く織り込むことが「趣向」である。ところが、日本ではヴァイルはビッグネームの作曲家とは言えないのでヴァイル好きの井上としては観客や読者へのサービス精神か

ら劇中歌リストを掲載したのだろう。

もともと、日本の文学や芸能には同類のものを数多く列挙しながら、連想の面白さや意表を突く展開を楽しむ「物尽くし」という手法があった。西洋音楽史では、ヴァイルのドイツ時代の音楽劇とアメリカ時代のミュージカルは同列には論じないが、日本の物尽くしを踏まえた「ヴァイルのメロディー尽くし」ならばブレヒト台本の音楽劇でもブロードウェイミュージカルでも列挙する歌の数が多ければ多いほど手柄なのである。物尽くしを成功させるのは博識と遊びどころであるが、そのような物尽くしの下に、「夢の裂け目」は「三文オペラ」(1928年)から「ラブ・ライフ」(1948年)まで、20世紀前半を生きたヴァイルの戦前・戦中・戦後の主要作品を寄せ集めることができた。その結果、ドイツ人からアメリカ人となり、音楽劇からミュージカルを作曲するという変化はあっても、ヴァイルの音楽人生はナチスの迫害にあいながらも戦前・戦中・戦後と切れ目なく続いていることを改めて認識させられる。それならば、ヴァイルと同年に設定され、日本のフツ一人の典型として造形されている「夢の裂け目」の主人公田中天声の戦前・戦中・戦後の人生も同様ではないだろうか。天声は戦前は無声映画の弁士であったがトーキー映画に食われて失業し、戦中は軍国紙芝居で軍のお先棒をかついだが敗戦で営業できなくなり、戦後は「民主天声会」という紙芝居屋集団を組織し新作「日本の恩人マッカーサー元帥伝」を掲げて出直しを図る。一見、無節操な人生であるが、過去をご破算しながら今を生きるという点では天声の戦前・戦中・戦後は一貫している。これが「夢の裂け目」で提起される日本人の戦争責任を問うときの出発点であろう。井上が「夢の裂け目」の劇中歌にヴァイルのメロディーを多用するのは、戦前・戦中・戦後の時代の連続性を認識させるのが最大の理由であり、井上の個人的な愛好のためだけではない。

注.

- (1) 日本では「ワイル」とも表記されるが本文は「ヴァイル」で通す。
- (2) アメリカで「三文オペラ」が受け入れられるのはヴァイルの死後であり、1954年3月のド・リス劇場での公演は2707回ものロングランとなった(岩淵、早崎1985: 254-255)。

- (3) 例えば「ニューグローブ世界音楽大事典」(1994年、東京: 講談社)の「ヴァイル」の項には「才能を十分に発揮できなかったか才能の一部を無駄使いしてしまった」(第2巻、194頁。項目執筆はDavid Drew、岩淵達治、早崎えりな訳)という指摘がある。
- (4) 井上によるベートーヴェンの編曲民謡の使用は、「太鼓たたいて笛ふいて」(2002年初演)の「文字よ飛べ飛べ」でのウクライナ・コサック民謡「美しいミンカよ、行かねばならない Schöne Minka, ich muss scheiden」(23の各国の歌 WoO. 158a 第16曲)に始まり、次いで「箱根強羅ホテル」(2005年初演)の「困ったときには」でのシチリア民謡「あゝ聖なるお方 O sanctissima」(12の各国の歌 WoO. 157 第4曲)、そして「夢の痂」(2006年初演)での「主務官の仕事は」と続く。なお、初めてベートーヴェンを使用した「太鼓たたいて笛ふいて」では編曲民謡だけでなく、有名な芸術歌曲「自然における神の栄光」(ゲレルト Gellert の詩による6つの歌曲 op.48-4)を使用して「物語にほまれあれ」を歌わせており、相応の配慮を施している。
- (5) 「マック・ザ・ナイフ」による井上のメッセージソングは2010年6月の「夢の痂」公演でフィナーレに歌われ、井上への追悼の意を表した。
- (6) 語りを重視するため、井上は「夢の裂け目」の天声役には「黙阿彌オペラ」(1995年初演)の五郎蔵役で歌舞伎の声色を演じた経験のある角野卓造を起用し、2010年の再演でも角野を起用した。なお「黙阿彌オペラ」については坂本(2003a)参照。

参考文献.

- 井上ひさし(1989)「ブロードウェイ仕事日記」『遅れたものが勝ちになる』所収、88-128頁。東京: 中央公論社
- 井上ひさし、山元護久(1991a)『ひょっこりひょうたん島』(3)ブルドキアの巻(上)、東京: 筑摩書房
- 井上ひさし、山元護久(1991b)『ひょっこりひょうたん島』(10)マジョリタンの巻(1)、東京: 筑摩書房
- 井上ひさし(2001)『夢の裂け目』東京: 小学館

- 井上ひさし (2004) 『夢の泪』 東京：新潮社
- 井上ひさし (2005a) 「趣向を追う」 (初出1979)
『井上ひさしコレクション ことばの巻』 所収,
348-354頁。東京：岩波書店
- 井上ひさし (2005b) 「あの平板な声ー『夢の裂け
目』」 (初出2001) 『井上ひさしコレクション 日
本の巻』 所収, 188-189頁。東京：岩波書店
- 井上ひさし (2005c) 「裁判儀式論ー『夢の泪』」
(初出2003) 『井上ひさしコレクション 日本の
巻』 所収, 189-190頁。東京：岩波書店
- 井上ひさし (2007) 『夢の痂』 東京：集英社
- 岩淵達治, 早崎えりな (1985) 『クルト・ヴァイラー
ブレヒト劇からブロードウェイミュージカルへ』
東京：ありな書房
- 坂本麻実子 (2003a) 「歌声と声色ー『黙阿彌オペ
ラ』の一考察」 『富山大学教育学部研究論集』 第
6号, 9月, 87-93頁。
- 坂本麻実子 (2003b) 「唱歌から読む『國語元年』」
『桐朋学園大学研究紀要』 第29集, 10月, 49-62
頁。
- 坂本麻実子 (2004) 「役者に歌わせる井上ひさしの
手法ー『頭痛肩こり樋口一葉』の場合ー」 『桐朋
学園大学研究紀要』 第30集, 10月, 37-48頁。
- 坂本麻実子 (2009) 「井上ひさしと6人の役者によ
る音楽劇」 『富山大学人間発達科学部紀要』 第4
巻第1号, 11月, 135-140頁。
- 芝邦夫 (1991) 『ブロードウェイ・ミュージカル事
典』 (増補再版) 東京：劇書房
- ブレヒト Brecht, Bertolt (1998) 『三文オペラ』
(岩淵達治訳) 『ブレヒト戯曲全集』 第2巻所収,
東京：未来社
- ブレヒト Brecht, Bertolt (1998) 『マハゴニー市の
興亡』 (岩淵達治訳) 『ブレヒト戯曲全集』 第2
巻所収, 東京：未来社

※ヴァイルの楽譜は次のとおり。

Weill, Kurt: *Aufstieg und Fall der Stadt
Mahagonny*, Universal Edition, Wien, Austria,
2000

Weill, Kurt: *Der Dreigroschenoper*, Universal
Edition, Wien, Austria, 1998

Weill, Kurt: *Kurt Weill Songs A Centennial
Anthology, Volume 1&2*, Alfred Publishing,
CA, USA, 1999

(2010年10月20日受付)

(2010年12月15日受理)